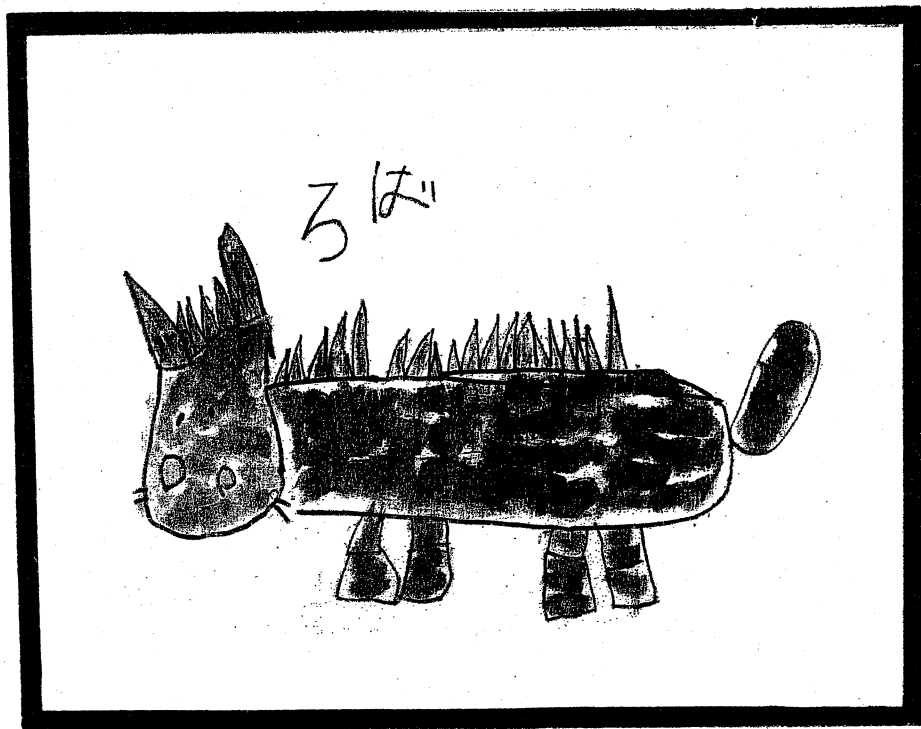


第26次報告書

# 特殊学級「個別の指導計画」 甲府プラン

その2 …事例集…



平成16年3月

甲府市心身障害児教育研究会

## まえがき

一人の教師ができることには限りがあるかもしれない。しかし教科書や指導書に反映された一定の教育内容と教え方が継承されることによって、一度に大ぜいの子どもを学級・学年単位で教育することができる。また教師も親もそして子ども自身も、学校で教わることをだいたいのイメージとして持っている。だから一人の教師ができることに限りがあっても通常の学級の教育は表面的には進んでいく。

だが、特殊学級の場合はどうだろうか。同様に、一人の教師ができることには限りがある。教科書や指導書は実際にはあまり役立たない。結局は、その子ども一人に合わせて指導方法もカリキュラムも教師が創っていかなければならない。教師自身も親たちも、そして本人自身も学校で教わることをなかなかうまくイメージできない。一人の教師にできることに限りがあり、しかも一人の教師にできることが特殊学級でできることのすべてなのである。

この分野のベテランで、本研究会のリーダーであった故広瀬東男先生は常々、特殊学級の担任者を支えておられた。初めて担任になった先生の気持ちを『・同じ学校にいながら特殊学級を余りに知らなすぎた。・心身障害児とはどんな障害を持った子どもたちなのだろうか。・何もできない、どんなことから指導したらよいか。・教科書がないが、何をどう教えたらよいか。等の問題が山積し、誰もが悩む日々の連続である』と書かれている。東男先生は新しく担任になった先生のために、よい手がかり、よい手引きが必要だと力説され、初めてこの子らと接した時は、どんな風に声をかけたらよいのかも見当がつかない、悩む日々の連続だ、と代弁しておられた。

誰でもが特殊学級担任になったとき手本となるもの、それをめざしてこの冊子は作られた。多忙にもかかわらず熱心に取り組んだ各委員、リードして下さった市教育委員会に敬意を表したい。また、貴重な資料と助言を提供していただいた県立富士見養護学校、及び県内のいくつかの小学校には記して感謝を表したい。

この冊子が実際に、特殊学級担任の毎日を支えるものであるよう心から願っている。

2004. 2. 3

甲府市心身障害児教育研究会会長  
広瀬 信雄(山梨大学)

〈表紙は玉諸小児童作品〉

# 目 次

まえがき

目 次

1	研究の経過	1
2	事例（小学校）	
①	知的障害の子どもの場合	3
②	知的障害（重度）の子どもの場合	5
③	知的障害と自閉症を併せ持つ子どもの場合	7
④	情緒障害の子どもの場合	9
⑤	言語障害の子どもの場合	11
⑥	肢体不自由の子どもの場合	13
⑦	病弱の子どもの場合	17
	（中学校）	
①	知的障害の子どもの場合	21
②	知的障害（重度）の子どもの場合	23
③	情緒障害の子どもの場合	25
3	授業実践例	
①	小学校	27
②	中学校	31

# 1 研究の経過

もとより、子どもたちは一人一人、その能力や特性、状況の違いからそれぞれが異なった教育ニーズをもっており、その可能性を最大限に引き出し、個性の伸長を図ることは、教育の大きな目標である。特に、障害のある子どもたちの教育においては、この目標達成のために、教育課程を具体化した「指導計画」を作成し、さらに個を見据えて【実態を的確に捉えて目標を設定し、具体的な指導内容を検討し、指導の場の工夫や指導・支援の手だてを含めた『個別の指導計画』を立案する】という一連の過程を経て、はじめて具体的な授業が展開される。このことから、今新たに『個別の指導計画』を作成するようになったというより、これまでも担任が行ってきたはずの一連の作業過程を文章化したものが『個別の指導計画』であり、特殊学級では作成の義務づけはないが、指導の継続等の観点から『個別の指導計画』が資料として用意されることが大切だと認識されてきたとも言える。

## 〈 事例集作成の背景 〉

本年度、本県の小・中学校特殊学級の設置市町村充足率は90%を超え、学級数もここ10年増加傾向にある。一方、毎年、新担任者が3分の1を占めるという状況も続いている。今後、小・中学校において、この教育はさらに、担任一人ではなく学校全体の組織的な指導のもとに展開されるようになっていくと思われる。

『個別の指導計画』に視点を当てた本研究は、3か年計画の2年次を迎えたが、新担任者も含め、むしろ私たち自身のために、これまでの教育活動を振り返り、昨年度の「作成の手引き」をもとに、小・中学校で具体的な作成に役立つよう障害別事例集を作成した。

- どう子どもを把握し、目標を立て、実践につなげるか。
- 実態把握では、重点的に書き込む箇所や簡略化する箇所をどう考えたらいいのか。
- 教科・領域の項は、教科等の指導内容別の項立てにするのか、指導の形態別にするのか。
- 目標に準拠した評価として、目標と評価との関連をどう見やすく表すか。
- 長期と短期の計画をどう関連づけるか。

障害の特徴に応じて、これら具体的な作成にあたってのヒントをこの事例集から読み取っていただければ幸いである。

## 〈 具体的作成の留意点 〉

『個別の指導計画』を作成する上で、次の点にも留意する。

- ・「保護者と作る」、「保護者への説明責任」等の観点から、文章表現に配慮をする。
- ・「教科・領域」の項は、指導の形態別で書くと指導の場が明らかになり、使いやすい。
- ・発達段階によっては中学校でも、「領域・教科を合わせた指導」はある。
- ・交流教科等は、交流学級担任と話し合って作成する。
- ・短期目標を設定し、気づいた点を書き込んでいき、計画の見直しにつなげる。
- ・支援の方法は具体的に書く。
- ・通知表とのリンクを図り、指導要録の補助簿や引き継ぎ資料としての活用を図る。

## 〈 『個別の指導計画』の今後 〉

特殊学級においては、『個別の指導計画』の作成が始まったばかりであるが、今後の特別支援教育では、「個別の教育支援計画」にまでも踏み込んできている。当面、関係機関と連携して、就学前、卒業後の視点を補っていくことも必要となってくると思われる。『個別の指導計画』を作成する過程で、小・中学校と特殊教育諸学校等との協力体制がさらに充実し、日常のコンサルテーション確立のきっかけになることを願う。

## 2 事 例 （小学校）



〈玉諸小児童作品〉

# ① 知的障害の子どもの場合

## 学校生活実態表

〇〇小学校	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇	氏名	〇〇〇〇	記入者	〇〇〇〇
生年月日	略	略	家族構成	略		
障害状況	知的障害(軽度)・構音障害					
項目	実態(本人の興味・関心を含む)					
①着脱	自分でできる。					
②食事	好き嫌いはほとんどなく、たくさん食べる。はしや茶碗の持ち方を注意されることがある。					
③排泄	他のことごとく夢中になって失敗してしまふことがある。大便の時にしりをふけていることがある。					
④清潔習慣	常時口を閉じていることができない。よだれを垂らすことや、手をべろべろなめる癖がある。					
⑤物の管理	自分の物は決められた場所に置くが、整理整頓は苦手である。					
⑥カプセルの理解	一日の予定を把握して行動するが、自分の時間割だけでなく友達のものまで常に教師に確認する。変更があること受け入れられるまでに泣いたり教室を飛び出したりと大騒ぎをしようとする。					
⑦安全の確認	ひとつのことに夢中になると周りが見えなくなってしまう。					
①健康状態	良好。同学年の児童に比べ身長、体重共に大きい。					
②手指の操作	指先を使うことは苦手で、ゼロハンテープを切る、はさみで切る、折り紙を折るといったことが上手にできない。					
③調整力	パラソルが上手にできない。前後左右への体の動きがスムーズではない。					
④持久力	特に問題なし。					
⑤協応動作	手足の協応動作、見て動作をまねることが苦手。ラジ体操、マット運動、なわとび等も苦手。					
①視知覚的認知	色の弁別はできる。果物や動物、植物などの手本を見て、かたちをえらぐことは苦手。相手の話す内容はおおよそ理解している。構音障害があり、ものをのまを正しく発音できないため、話す・書くと言った表現は苦手である。話すときは2語文程度、書くことは3文字までの単語など何とかな書けることがある。					
②ことは	③かず					
①対人関係	人なつこく自分から関係を求めていく。対子どもよりも大人との関係を好む。					
②集団参加	集団以外にも、抱きつく、手を握る等の行動をとるが相手することを好まない。一人で嫌がられることもある。					
③コミュニケーション	単純な運動やあそび(鬼ごっこ、ボールけり、ボーリングなど)は大好き。					
④興味・関心	明るく楽しい性格である。自分の欲求が満たされないとおねん状態になることがある。					
⑤情緒						

### 〈個別の指導計画作成について〉

・個別の指導計画は、在籍の担任が作成する。  
 ・個別計画は、年度当初に計画を作成している。児童の実態に準じて、指導計画は修正していくものである。  
 ・生活面に関する事項は、必要に応じて記入していく。「活動の様子・評価」には、できなかつたことと記録ではなく、どのような支障を工夫して達成したかを記入していく。  
 ・(保護者も目を通す機会もあつて、ともある)。  
 ・児童の実態に準じては年度を通して成長が緩やかな場合もある。そのために『指導計画内容・めあて』に大きな変化がなかったり、前年度と同様のものが設定されたりする場面もある。  
 ・交流科について記入は、その児童がなかなかならぬ程度である。また、付き添いする場合は、交流科の内容についても適切な指導者とも話し合いを作成していく。  
 ・『その他』の項には、知識指図・原簿について必要に応じて記入していく。  
 ・『反省』の項には、来年度の引き継ぎ事項など含めて記入する。  
 ・担任の負担にならないように、指導したことすべてを記入するのではなく、ポイントを絞って記入していく。  
 ・一人ひとりのニーズに合った指導を卒業させるための計画といたってもタイプは様々である。無理のない計画を立て、柔軟に対応していくことが大切であらう。

〇〇小学校	〇〇〇〇〇〇	2年	氏名	〇〇〇〇	記入者	〇〇〇〇
指導重点	年間目標 ・日常生活においての自立を図る。 ・通学級の児童との交流を通して社会性を養う。 ・学校生活で言語の習得、コミュニケーション能力を高める。	年間の自立を図る。 ・一日の流れを理解して行動する。 ・交流授業、遠足、集会などを通身で物の名前を正しく話す。 ・排泄の処理がしっかりできる。	希望(短期間で) ・人の話を聞くことができる。 ・話し方がよくなる。 ・外期間で友達の支度が自分できている。 ・友達とルールを守ることができ、約束を守ることを嫌いだらない。	指導の内容・めあて ○給食 ・手洗いの準備を整える。 ・給食の準備や食器などの持ち方に気を付けて食べる。 ・みんなどて楽しく食べる。 ○清掃活動 ・身支度を整える。 ・身支度を揃えて床を拭く。 ・順番通りに雑巾を絞る。 ・しっかりと雑巾を絞る。	指導の手立て ・給食の準備や身支度の順番を覚せる。 ・自分の準備を指示しながら見てみる。 ・みんなどて全員が準備できているようにしていく。	活動の様子・評価 ・自分の支度だけでなく、できていない児童についても気づくことができた。 ・食べているとき着やスプーンの持ち方には注意をはらうことができた。 ・休み時間が終わったことがわかっていて、時間通りにもってこなかった。 ・掃除の準備について手順は理解し、手早く床をふることができた。 ・休み時間が終わったことがわかっていて、時間通りにもってこなかった。 ・掃除の準備について手順は理解し、手早く床をふることができた。 ・会の流れを覚えていて司会ができた。 ・途中では、自分の気になったことを発言してしまふ場面がまだある。
生活単元学習	野菜を育てよう ・道具を準備する。 ・種をまいたり、苗を植える。 ・草取りや、水まきをします。 ○パフェ作りしよう ・必要な道具や材料について話し合いに参加する。 ・みんなどて楽しく買い物に行く。 ・缶を開けたり、袋を開けたり、缶詰を開けたり。 ・みんなどておいしく食べる。	酒鳥について何を準備するのかわかぬ。 ・酒鳥の抜き方をみながら、同じように出来るよう指導する。 ・手を添えながら、水のまきを指導する。	何を育てよう ・道具を準備する。 ・種をまいたり、苗を植える。 ・草取りや、水まきをします。 ○パフェ作りしよう ・必要な道具や材料について話し合いに参加する。 ・みんなどて楽しく買い物に行く。 ・缶を開けたり、袋を開けたり、缶詰を開けたり。 ・みんなどておいしく食べる。	指導の様子・めあて ・何を育てよう ・道具を準備する。 ・種をまいたり、苗を植える。 ・草取りや、水まきをします。 ○パフェ作りしよう ・必要な道具や材料について話し合いに参加する。 ・みんなどて楽しく買い物に行く。 ・缶を開けたり、袋を開けたり、缶詰を開けたり。 ・みんなどておいしく食べる。	何を育てよう ・道具を準備する。 ・種をまいたり、苗を植える。 ・草取りや、水まきをします。 ○パフェ作りしよう ・必要な道具や材料について話し合いに参加する。 ・みんなどて楽しく買い物に行く。 ・缶を開けたり、袋を開けたり、缶詰を開けたり。 ・みんなどておいしく食べる。	活動の様子・評価 ・何を育てよう ・道具を準備する。 ・種をまいたり、苗を植える。 ・草取りや、水まきをします。 ○パフェ作りしよう ・必要な道具や材料について話し合いに参加する。 ・みんなどて楽しく買い物に行く。 ・缶を開けたり、袋を開けたり、缶詰を開けたり。 ・みんなどておいしく食べる。



### ② 知的障害（重度）の子どもの場合

#### < 学校生活実態表 >

氏名	〇〇小学校 〇〇〇〇学級	第4学年	記入者	〇〇〇〇
障害状況	知的障害（重度）四肢麻痺	家族構成	省略	
	実態（本人の興味・関心も含む）			
項目	・少し支障すれば、自分でだいたいできる。 ・食べべこぼしは多いが、一人ではほぼ食べられる。時間がかかる。好き嫌いがあり、堅い物を嫌がる。マナーを注意されることが多い。 ・失敗はほとんどどんでなく、トイレを教えられる。尻を拭く、水を流す、手を洗うが定着していない。 ・よだれが多い。手を洗う等の習慣が定着していない。 ・自分の物がたいがいわかるが、整理整頓は苦手である。 ・一日の予定を理解するのは難しい。 ・危険回避が苦手、急に走り出したり、飛び出す。			
①着脱 ②食事 ③排便 ④清潔習慣 ⑤物の管理 ⑥スケジュールの管理 ⑦安全の認識	運動身体面	・足元が安定し、朝夕に薬服用。1～2年生から比べると大きく改善されている。 ・右手は上手に動くが、左手は麻痺がやや強い。 ・麻痺があるため、バランス感覚は悪い。ヘッドギア使用。 ・すぐに立ち歩くことができるが、バズル等、集中できるものもある。 ・見て動作を真似するようだが、手足の適応動作は苦手。手遊びや体操等も嫌いだではないが、得意ではない。	認知面	・簡単な形（〇×△等）や簡単な色の弁別ができる。口はわがからない。 ・発語は不明瞭ながら、食べ物や身近なものの名前を言えるものも多い。 ・かすの概念はない。
⑧対人関係 ⑨集団参加 ⑩コミュニケーション ⑪興味・関心 ⑫情緒	社会性	・受動的ではあるが人なつこい。遊びは一人を好み、甘えることができる。 ・抵抗なく集団に入ることができる。ルールや順番の理解は難しい。 ・慣れば、不明瞭ではあるが1語文で、自分の意思を伝えたり、人の名前を覚えて言うことができる。日常の簡単な事柄はおおよそ理解できている。簡単な指示がわかり行動できる。 ・昨年からバズルが大好きになる。キャラクターやアニメメが好きである。 ・明るい性格で、情緒も安定している。自由気ままに行動したがる。		

#### < 重度知的障害の子どもの指導計画作成について >

- ・指導の内容が「学習面」より「生活面」が主になるので、当然「生活面」の表が大きくなるだろう。障害の程度によって、成長が遅やかな場合は、学期ごとに「個別の指導計画」を作成するより、年間通してこれだけ成長したというようなど、一瞥で見られた方が次年度にわかりやすいのではないだろうか。
- ・指導のてででは、少しずつステップアップするようなものや考えたい。

### < 個別の指導計画 >

甲府市立〇〇小学校	(4年生)	氏名	〇〇〇〇	記入者	〇〇〇〇
年間目標 ・身の回りのことについて、自立して行動ができる。 ・交流学習年で、仲間や担任と関係を築くことができる。 ・生活習慣や交流授業において、交流できることである。 ・最後までがんばる。 ・毎日元気に登校する。	学期の目標 ・身辺自立において、一人でできることを増やす。 ・休まず登校する。 ・通学や交流授業において、交流できることである。 ・同じ学級の友だちに優しく接する。				評価 (今後の課題) ・家庭生活の改善と安定 ・家庭との連携 ・手足のリハビリ
指導重点	甲府市立〇〇小学校 ・身辺自立において、一人でできることを増やす。 ・休まず登校する。 ・通学や交流授業において、交流できることである。 ・最後までがんばる。 ・毎日元気に登校する。				評価 (今後の課題) ・家庭生活の改善と安定 ・家庭との連携 ・手足のリハビリ
指導内容	指導のめあて	指導の手だて	保護者の評価		
①着脱	シャツをズボンの中にしまし、履いたものをたたむ。靴下を正しくはく。	・シャツをズボンの中にしまし、履いたものをたたむ。 ・靴下を正しくはく。 ・好きな食べ物と嫌いな食べ物。 ・こぼさず食べる。 ・上手に飲み込む。 ・両手を使って食べる。 ・一人で食べる。 ・食事をマナーよく食べる。 ・あいさつ、待つ。 ・片付けをする。 ・集中して食事を食べる。	保護者の評価 ・毎日、楽しそうに登校できて良かった。 ・友だちが増えた。 ・バズル等に集中できるようになった。 ・家で着ている洋服が学校では落着いて生活できていた良かった。		
②食事	好きな食べ物と嫌いな食べ物。こぼさず食べる。上手に飲み込む。両手を使って食べる。一人で食べる。食事をマナーよく食べる。あいさつ、待つ。片付けをする。集中して食事を食べる。	・時間の許す限り自分でやらせる。自分の服の区別を教える。靴下の形とかかかとを理解させる。 ・毎日の練習 ・おならを我慢してトイレに行く。	・声をかけると意識してシャツをしまおうとして、上達した。 ・服の前後表裏がだいぶわかるようになった。 ・言えれば履きたたえようとする。 ・食べべこぼしが多いが、段々良くなった。(特に、片もの) ・時間になかなか食べべられない。 ・気が散ってしまふことが多い。 ・苦手を肉やカレーが食べられるようになった。 ・給食着をたたむのが上達してきた。 ・片付けを一人でできるようになるまで、手を離して一人でできるように指導してあげる。 ・家庭での生活の協力が要。		
③排便	和式便器の使い方。お尻を拭く。大便の後、お尻を拭く。便器の手を洗う。	・和式便器の使い方。 ・お尻を拭く。 ・大便の後、お尻を拭く。 ・便器の手を洗う。	・用便の後、お尻を拭く。お尻を拭く。便器の手を洗う。		
④清潔習慣	手を洗う。鼻をかむ。耳の掃除をする。つめきりをする。歯磨きをする。	・手を洗う。 ・鼻をかむ。 ・耳の掃除をする。 ・つめきりをする。 ・歯磨きをする。	・洗面所の水を出して手を洗う。お尻を拭く。歯磨きをする。つめきりをする。鼻をかむ。耳の掃除をする。		
⑤物の管理	片付けをする。自分の物と他人の物の区別	・片付けをする。 ・自分の物と他人の物の区別	・自分の物と他人の物の区別		
⑥予定の理解	一日の予定をおおよそ理解する。前の出来事を思い出す。落ち着いて行動する。	・朝の会でお話をし、一日の予定をおおよそ理解する。 ・前の出来事を思い出す。 ・落ち着いて行動する。	・朝の会でお話をし、一日の予定をおおよそ理解する。 ・前の出来事を思い出す。 ・落ち着いて行動する。		



<p>①安全の認識</p>	<p>・自分の身体の状態を認識させる。 ・あいさつをする。 ・あいさつがとつと、こめんなさいを言えるようになる。 ・靴の左右がわかる。 ・周りを見て振動する。 ・着席ができる。 ・そうじをする。</p>	<p>校内を走らない。 よそ見をしない。 足下を見つめず、歩幅を揃えて歩かせる。 降段や段差は手すりにつかまると同時に、足下の歩幅を揃えて歩かせる。 あいさつをさせる。 あいさつがとつと、こめんなさいを言えるようになる。 靴の左右がわかる。 その態度促す。 上履きに印をつける。 周囲に注意を向けるように指導する。 勝手に立ち歩いたときの指導。 腕手をしぼる。 掃除機をかける。</p>	<p>・廊下を走ることが多い。 ・周囲に気をとられる。 ・転ぶ回数が増えた。 ・家庭の協力が不足。 ・促せば言えるようになった。 ・促せば、直そうとはする。 ・促されれば周りをみるようになってきた。 ・だいたい落ちて着き、促せば戻ってくる。 ・少しづつ固くしぼろうとする。 ・コンセントにコードをさしこめるようにしてきた。</p>	<p>音楽(交流) ・交流授業に参加し、みなが歌ったり、楽器を弾いたり。 ・連合音楽会への参加。 ことば ・意思表示ができる。 ・言葉を構ややす。 ・相手の言うことを真似ることができる。 ・正しい発音をする。</p>	<p>周りのまねをするように促す。 自由に音を出せる。 リズム打ちをしながら理解できない。 歌では声を積極的に出すようになった。 連合音楽会ではトライアングルの音がわかるようになった。 車庫で意思表示ができる。 2語文には自分から話しかけることもある。 親しい人には自分から話しかけることもある。 1パカ、アホ、等汚い言葉を使うようになる。 聞き取れる言葉が増えた。</p>	<p>・体を動かすことが好きになる。 ・トランポリンで両足を揃えて跳べることになる。 ・転ばずに走れるようになった。 ・10000は位ゆっくり走りた。 ・好んで三輪車に乗ろうとする。 ・左手でも、ゆつくりと音が取り組める。</p>	<p>・交流学級を意欲的にできるようになった。 ・友だちの気をとられて、時間内に食べられない。 ・友だちの様子を見て注意されるように、行儀よく食べようとする。 ・とても楽しんで食べる。 ・公共施設で静かに見学できた。 ・本物の消防車に興味を示す。 ・友だちと一緒に車にお弁当を食べることができた。 ・一歩ずつ練習して参加できた。 ・休まず練習に参加できた。 ・当日は午前中のみ参加。 ・一人で徒競走を走りつづけた。 ・児童館で友だちと遊んでいることができた。 ・運動会の練習で多方面で成長が見られた。 ・友だちの支援で整列できる。 ・上級生にリードされて行動できた。 ・比較的落ちついて行動できた。 ・6校時までなかなかなかまなかった。 ・食べ物がなかなかなかまなかった。 ・友だちの使うミシンに興味を示した。 ・時には開閉するとうとするが、だいたいは一人遊びを好む。 ・休み時間は学級にいたがる。 ・順番が分かってきた。 ・顔がわかる友だちに甘えるようになる。</p>
<p>運動・身体面</p>	<p>①健康状態 ②全身運動 ③手指操作 ④調整力 ⑤持久力 ⑥協応操作 ⑦その他</p>	<p>・体つくり ・両足をそろえて跳ぶ。 ・バランサーをこまめに歩く。 ・走りながら、走ったたりする。 ・左手の訓練。</p>	<p>・週にまねをするように促す。 ・週を飛ばし続けるように練習を繰り返す。 ・授業や体育館で練習する。 ・色々な場面、両手を使うように促す。 ・手すりや壁につかまると、三輪車をこぐ。 ・ペグ差しの練習。</p>	<p>ことば ・意思表示ができる。 ・言葉を構ややす。 ・相手の言うことを真似ることができる。 ・正しい発音をする。</p>	<p>周りのまねをするように促す。 自由に音を出せる。 リズム打ちをしながら理解できない。 歌では声を積極的に出すようになった。 連合音楽会ではトライアングルの音がわかるようになった。 車庫で意思表示ができる。 2語文には自分から話しかけることもある。 親しい人には自分から話しかけることもある。 1パカ、アホ、等汚い言葉を使うようになる。 聞き取れる言葉が増えた。</p>	<p>・体を動かすことが好きになる。 ・トランポリンで両足を揃えて跳べることになる。 ・転ばずに走れるようになった。 ・10000は位ゆっくり走りた。 ・好んで三輪車に乗ろうとする。 ・左手でも、ゆつくりと音が取り組める。</p>	<p>・交流学級を意欲的にできるようになった。 ・友だちの気をとられて、時間内に食べられない。 ・友だちの様子を見て注意されるように、行儀よく食べようとする。 ・とても楽しんで食べる。 ・公共施設で静かに見学できた。 ・本物の消防車に興味を示す。 ・友だちと一緒に車にお弁当を食べることができた。 ・一歩ずつ練習して参加できた。 ・休まず練習に参加できた。 ・当日は午前中のみ参加。 ・一人で徒競走を走りつづけた。 ・児童館で友だちと遊んでいることができた。 ・運動会の練習で多方面で成長が見られた。 ・友だちの支援で整列できる。 ・上級生にリードされて行動できた。 ・比較的落ちついて行動できた。 ・6校時までなかなかなかまなかった。 ・食べ物がなかなかなかまなかった。 ・友だちの使うミシンに興味を示した。 ・時には開閉するとうとするが、だいたいは一人遊びを好む。 ・休み時間は学級にいたがる。 ・順番が分かってきた。 ・顔がわかる友だちに甘えるようになる。</p>
<p>社会性・コミュニケーション</p>	<p>①対人関係 ②集団参加 ③コミュニケーション ④興味・関心 ⑤遊び ⑥情緒 ⑦その他</p>	<p>・交流活動 ・4年生との交流を深めることができる。 ・かえり言葉のやりとりをする。 ・友だちと遊べるようになったり、友だちと一緒に遊べるようになったりする。 ・給食をみんなと食べられる。 特別活動 ・校外学習に参加して、学年の友だちとの関係を深める。 ・運動会に参加する。(9月)</p>	<p>・交流活動 ・4年生との交流を深めることができる。 ・かえり言葉のやりとりをする。 ・友だちと遊べるようになったり、友だちと一緒に遊べるようになったりする。 ・給食をみんなと食べられる。 特別活動 ・校外学習に参加して、学年の友だちとの関係を深める。 ・運動会に参加する。(9月)</p>	<p>音楽(交流) ・交流授業に参加し、みなが歌ったり、楽器を弾いたり。 ・連合音楽会への参加。 ことば ・意思表示ができる。 ・言葉を構ややす。 ・相手の言うことを真似ることができる。 ・正しい発音をする。</p>	<p>周りのまねをするように促す。 自由に音を出せる。 リズム打ちをしながら理解できない。 歌では声を積極的に出すようになった。 連合音楽会ではトライアングルの音がわかるようになった。 車庫で意思表示ができる。 2語文には自分から話しかけることもある。 親しい人には自分から話しかけることもある。 1パカ、アホ、等汚い言葉を使うようになる。 聞き取れる言葉が増えた。</p>	<p>・体を動かすことが好きになる。 ・トランポリンで両足を揃えて跳べることになる。 ・転ばずに走れるようになった。 ・10000は位ゆっくり走りた。 ・好んで三輪車に乗ろうとする。 ・左手でも、ゆつくりと音が取り組める。</p>	<p>・交流学級を意欲的にできるようになった。 ・友だちの気をとられて、時間内に食べられない。 ・友だちの様子を見て注意されるように、行儀よく食べようとする。 ・とても楽しんで食べる。 ・公共施設で静かに見学できた。 ・本物の消防車に興味を示す。 ・友だちと一緒に車にお弁当を食べることができた。 ・一歩ずつ練習して参加できた。 ・休まず練習に参加できた。 ・当日は午前中のみ参加。 ・一人で徒競走を走りつづけた。 ・児童館で友だちと遊んでいることができた。 ・運動会の練習で多方面で成長が見られた。 ・友だちの支援で整列できる。 ・上級生にリードされて行動できた。 ・比較的落ちついて行動できた。 ・6校時までなかなかなかまなかった。 ・食べ物がなかなかなかまなかった。 ・友だちの使うミシンに興味を示した。 ・時には開閉するとうとするが、だいたいは一人遊びを好む。 ・休み時間は学級にいたがる。 ・順番が分かってきた。 ・顔がわかる友だちに甘えるようになる。</p>
<p>生活単元</p>	<p>・自分の役割を自覚する。 ・最後まで活動できる。 ・生活経験を広げる。</p>	<p>・何をするか言葉で理解できることが多かった。 ・物事への興味が持続しづらくなった。 ・どこかに行きたくて、活動が意欲的である。 ・蒸しパンに必要な道具や材料や手順がだいたいわかる。 ・白玉のあんごを丸めて餡に入れることができる。 ・餅に土を入れたり水まきを好んでやる。 ・12~13人位の人の名前と顔がわかるようになった。 ・習字を始める。</p>	<p>・何をするか言葉で理解できることが多かった。 ・物事への興味が持続しづらくなった。 ・どこかに行きたくて、活動が意欲的である。 ・蒸しパンに必要な道具や材料や手順がだいたいわかる。 ・白玉のあんごを丸めて餡に入れることができる。 ・餅に土を入れたり水まきを好んでやる。 ・12~13人位の人の名前と顔がわかるようになった。 ・習字を始める。</p>	<p>・交流活動 ・4年生との交流を深めることができる。 ・かえり言葉のやりとりをする。 ・友だちと遊べるようになったり、友だちと一緒に遊べるようになったりする。 ・給食をみんなと食べられる。 特別活動 ・校外学習に参加して、学年の友だちとの関係を深める。 ・運動会に参加する。(9月)</p>	<p>周りのまねをするように促す。 自由に音を出せる。 リズム打ちをしながら理解できない。 歌では声を積極的に出すようになった。 連合音楽会ではトライアングルの音がわかるようになった。 車庫で意思表示ができる。 2語文には自分から話しかけることもある。 親しい人には自分から話しかけることもある。 1パカ、アホ、等汚い言葉を使うようになる。 聞き取れる言葉が増えた。</p>	<p>・体を動かすことが好きになる。 ・トランポリンで両足を揃えて跳べることになる。 ・転ばずに走れるようになった。 ・10000は位ゆっくり走りた。 ・好んで三輪車に乗ろうとする。 ・左手でも、ゆつくりと音が取り組める。</p>	<p>・交流学級を意欲的にできるようになった。 ・友だちの気をとられて、時間内に食べられない。 ・友だちの様子を見て注意されるように、行儀よく食べようとする。 ・とても楽しんで食べる。 ・公共施設で静かに見学できた。 ・本物の消防車に興味を示す。 ・友だちと一緒に車にお弁当を食べることができた。 ・一歩ずつ練習して参加できた。 ・休まず練習に参加できた。 ・当日は午前中のみ参加。 ・一人で徒競走を走りつづけた。 ・児童館で友だちと遊んでいることができた。 ・運動会の練習で多方面で成長が見られた。 ・友だちの支援で整列できる。 ・上級生にリードされて行動できた。 ・比較的落ちついて行動できた。 ・6校時までなかなかなかまなかった。 ・食べ物がなかなかなかまなかった。 ・友だちの使うミシンに興味を示した。 ・時には開閉するとうとするが、だいたいは一人遊びを好む。 ・休み時間は学級にいたがる。 ・順番が分かってきた。 ・顔がわかる友だちに甘えるようになる。</p>
<p>算数</p>	<p>・1対1対応。 ・1と2の理解。 ・△□×等の図形がわかる。 ・パスズルに取り組む。</p>	<p>・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。</p>	<p>・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。</p>	<p>・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。 ・あそびや生活の中で徐々に取り入れる。</p>	<p>周りのまねをするように促す。 自由に音を出せる。 リズム打ちをしながら理解できない。 歌では声を積極的に出すようになった。 連合音楽会ではトライアングルの音がわかるようになった。 車庫で意思表示ができる。 2語文には自分から話しかけることもある。 親しい人には自分から話しかけることもある。 1パカ、アホ、等汚い言葉を使うようになる。 聞き取れる言葉が増えた。</p>	<p>・体を動かすことが好きになる。 ・トランポリンで両足を揃えて跳べることになる。 ・転ばずに走れるようになった。 ・10000は位ゆっくり走りた。 ・好んで三輪車に乗ろうとする。 ・左手でも、ゆつくりと音が取り組める。</p>	<p>・交流学級を意欲的にできるようになった。 ・友だちの気をとられて、時間内に食べられない。 ・友だちの様子を見て注意されるように、行儀よく食べようとする。 ・とても楽しんで食べる。 ・公共施設で静かに見学できた。 ・本物の消防車に興味を示す。 ・友だちと一緒に車にお弁当を食べることができた。 ・一歩ずつ練習して参加できた。 ・休まず練習に参加できた。 ・当日は午前中のみ参加。 ・一人で徒競走を走りつづけた。 ・児童館で友だちと遊んでいることができた。 ・運動会の練習で多方面で成長が見られた。 ・友だちの支援で整列できる。 ・上級生にリードされて行動できた。 ・比較的落ちついて行動できた。 ・6校時までなかなかなかまなかった。 ・食べ物がなかなかなかまなかった。 ・友だちの使うミシンに興味を示した。 ・時には開閉するとうとするが、だいたいは一人遊びを好む。 ・休み時間は学級にいたがる。 ・順番が分かってきた。 ・顔がわかる友だちに甘えるようになる。</p>
<p>国語</p>	<p>・言葉を増やす。 ・えんぴつを持つ。 ・興味を持続させる。 ・(10分以上)聞く。 ・発音を正しくする。 ・本の面白さを聞く。 ・色が分かる。 ・点むすび。</p>	<p>・本の読み聞かせ。 ・絵カードの使用。 ・絵書くことと読み書きを味わわせる。 ・名前「○○○」がわかっているようにする。 ・生活の中に取り入れる。 ・簡単な点むすびの練習。</p>	<p>・本の読み聞かせ。 ・絵カードの使用。 ・絵書くことと読み書きを味わわせる。 ・名前「○○○」がわかっているようにする。 ・生活の中に取り入れる。 ・簡単な点むすびの練習。</p>	<p>・本の読み聞かせ。 ・絵カードの使用。 ・絵書くことと読み書きを味わわせる。 ・名前「○○○」がわかっているようにする。 ・生活の中に取り入れる。 ・簡単な点むすびの練習。</p>	<p>周りのまねをするように促す。 自由に音を出せる。 リズム打ちをしながら理解できない。 歌では声を積極的に出すようになった。 連合音楽会ではトライアングルの音がわかるようになった。 車庫で意思表示ができる。 2語文には自分から話しかけることもある。 親しい人には自分から話しかけることもある。 1パカ、アホ、等汚い言葉を使うようになる。 聞き取れる言葉が増えた。</p>	<p>・体を動かすことが好きになる。 ・トランポリンで両足を揃えて跳べることになる。 ・転ばずに走れるようになった。 ・10000は位ゆっくり走りた。 ・好んで三輪車に乗ろうとする。 ・左手でも、ゆつくりと音が取り組める。</p>	<p>・交流学級を意欲的にできるようになった。 ・友だちの気をとられて、時間内に食べられない。 ・友だちの様子を見て注意されるように、行儀よく食べようとする。 ・とても楽しんで食べる。 ・公共施設で静かに見学できた。 ・本物の消防車に興味を示す。 ・友だちと一緒に車にお弁当を食べることができた。 ・一歩ずつ練習して参加できた。 ・休まず練習に参加できた。 ・当日は午前中のみ参加。 ・一人で徒競走を走りつづけた。 ・児童館で友だちと遊んでいることができた。 ・運動会の練習で多方面で成長が見られた。 ・友だちの支援で整列できる。 ・上級生にリードされて行動できた。 ・比較的落ちついて行動できた。 ・6校時までなかなかなかまなかった。 ・食べ物がなかなかなかまなかった。 ・友だちの使うミシンに興味を示した。 ・時には開閉するとうとするが、だいたいは一人遊びを好む。 ・休み時間は学級にいたがる。 ・順番が分かってきた。 ・顔がわかる友だちに甘えるようになる。</p>
<p>図工</p>	<p>・はさみに慣れる。 ・のりにつける。 ・クレヨンや絵の具に親しむ。 ・粘土に親しむ。 ・いろいろな材料に親しむ。</p>	<p>・自由な描く、切る、貼る。 ・直線のとおりで切る。 ・目的を持って描く。 ・興味を持続させる。 ・なぐりかきからスタンプアップ作りにする。</p>	<p>・自由な描く、切る、貼る。 ・直線のとおりで切る。 ・目的を持って描く。 ・興味を持続させる。 ・なぐりかきからスタンプアップ作りにする。</p>	<p>・自由な描く、切る、貼る。 ・直線のとおりで切る。 ・目的を持って描く。 ・興味を持続させる。 ・なぐりかきからスタンプアップ作りにする。</p>	<p>周りのまねをするように促す。 自由に音を出せる。 リズム打ちをしながら理解できない。 歌では声を積極的に出すようになった。 連合音楽会ではトライアングルの音がわかるようになった。 車庫で意思表示ができる。 2語文には自分から話しかけることもある。 親しい人には自分から話しかけることもある。 1パカ、アホ、等汚い言葉を使うようになる。 聞き取れる言葉が増えた。</p>	<p>・体を動かすことが好きになる。 ・トランポリンで両足を揃えて跳べることになる。 ・転ばずに走れるようになった。 ・10000は位ゆっくり走りた。 ・好んで三輪車に乗ろうとする。 ・左手でも、ゆつくりと音が取り組める。</p>	<p>・交流学級を意欲的にできるようになった。 ・友だちの気をとられて、時間内に食べられない。 ・友だちの様子を見て注意されるように、行儀よく食べようとする。 ・とても楽しんで食べる。 ・公共施設で静かに見学できた。 ・本物の消防車に興味を示す。 ・友だちと一緒に車にお弁当を食べることができた。 ・一歩ずつ練習して参加できた。 ・休まず練習に参加できた。 ・当日は午前中のみ参加。 ・一人で徒競走を走りつづけた。 ・児童館で友だちと遊んでいることができた。 ・運動会の練習で多方面で成長が見られた。 ・友だちの支援で整列できる。 ・上級生にリードされて行動できた。 ・比較的落ちついて行動できた。 ・6校時までなかなかなかまなかった。 ・食べ物がなかなかなかまなかった。 ・友だちの使うミシンに興味を示した。 ・時には開閉するとうとするが、だいたいは一人遊びを好む。 ・休み時間は学級にいたがる。 ・順番が分かってきた。 ・顔がわかる友だちに甘えるようになる。</p>

③ 知的障害と自閉症を併せ持つ子どもの場合

< 学校生活実態表 >

〇〇小学校 〇〇〇〇学級		第4学年	〇〇〇〇学級	記入者	〇〇〇〇
氏名	〇〇〇〇	生年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日	家庭構成	省略
障害状況	知的障害(重度)	実態(本人の興味・関心も含む)			
項目	<p>①着脱 体育着等の着替えもスムーズで、きちんと衣服を畳むことができる。柔らかい食物・甘い物を好み、放っておくと嫌いな物は食べない。失敗することはないが、学校ではこだわりのため大便をしない。いつもさっぱりと清潔な格好をしている。耳あかを取らせない。自分の物の公共物も大切に扱い、きちんと片づけることができる。交流等に言われないと行くことができない。時間の意識は疎い。登下校において車の様子をよく見て道路を歩くことができている</p> <p>②健康状態 健康で学校を休むことは少ない。体重が少し増加気味。</p> <p>③全身運動 一般的な体に意識的に動かすことが嫌い。常運動が早られる。手足の動作がぎこちないことがあるが、日常生活には支障はない。</p> <p>④調整力 リズム・バランス感覚に乏しい。ドスン・ドスン跳ねたり走ったりする。ゆっくりに歩いたり30分間くらい継続して走ることができる。体の筋肉や関節が硬いため、ぎこちない動きが多い。歩くとき手と足が一線にならずにしまってしまうこともある。</p> <p>⑤持久力</p> <p>⑥協応動作</p> <p>⑦安全の認識</p>				
認知面	<p>①規知覚的認知 単純な物や形のマッチングは良くでき、身の回りの物については良識理解しているが、興味が無い物(輪転機)はあまり区別が付かない。理解している単語の数が増えているが、それを口に出さない。舌話をしたがらない。構音障害がみられ、発音がはつきりしない。舌の動きや口の動きが未熟である。文字は平仮名が半分以上書ける。3くらいまでの数は何とか認識できるが、それ以上になると混乱してしまう。時計やお金については全く興味が無い。</p> <p>②ことば</p> <p>③かず</p>				
社会性	<p>①対人関係 誰ともつきあうことができないが、自分の意志は伝えられない。相手に対して危害を加えたり、邪魔になったりしないのでみんなから好感を持たれている。自分から他の人に関わろうとはしない。言語が乏しく、発音も不明瞭なので、他の人とのコミュニケーションはとりにくい。</p> <p>②集団参加</p> <p>③コミュニケーション</p> <p>④興味・関心 嫌いなことには嫌悪感を表すが、これといって興味を示す物はない。たいへん落ち着いて生活しているが、何か困難なことがあるとすぐに泣き出したりする。嫌なことに対して強く抵抗することがある。</p> <p>⑤情緒</p>				

< 個別の指導計画(自閉的併せ持つ子ども)の作成について >

- ・自閉的傾向を持つ子どもの特徴として「社会性の問題」「コミュニケーションの問題」「興味関心の関心の偏りの問題」の3つがあり、それらの問題を克服するために、言語指導、交流活動、生活指導に重点を当てて指導計画を作成した。
- ・特に言語指導においては、個々の児童の実態に合わせ、細かいステップを設け、評価基準を設定し、段階的に指導できるように計画を立てた。

< 個別の指導計画 >

年間の目標	氏名	氏名	〇〇〇〇学級	4年	記入者	〇〇〇〇
<p>1 学期の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>1 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>1 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>1 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>1 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>1 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>1 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>
<p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況に合わせて着替えることができる。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>指導の手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況に合わせて着替えることができる。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>指導の手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況に合わせて着替えることができる。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>指導の手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>	<p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 状況に合わせて着替えることができる。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> <li>・ 学年の生活に合わせた生活リズムを身に付ける。</li> </ul>
<p>4月 野原作(1) 月(1)</p> <p>5月 「お誕生会」</p> <p>6月 「特殊林間」 参加(1)</p> <p>7月 「野菜を収穫しよう①」</p>	<p>4月 野原作(1) 月(1)</p> <p>5月 「お誕生会」</p> <p>6月 「特殊林間」 参加(1)</p> <p>7月 「野菜を収穫しよう①」</p>	<p>4月 野原作(1) 月(1)</p> <p>5月 「お誕生会」</p> <p>6月 「特殊林間」 参加(1)</p> <p>7月 「野菜を収穫しよう①」</p>	<p>4月 野原作(1) 月(1)</p> <p>5月 「お誕生会」</p> <p>6月 「特殊林間」 参加(1)</p> <p>7月 「野菜を収穫しよう①」</p>	<p>4月 野原作(1) 月(1)</p> <p>5月 「お誕生会」</p> <p>6月 「特殊林間」 参加(1)</p> <p>7月 「野菜を収穫しよう①」</p>	<p>4月 野原作(1) 月(1)</p> <p>5月 「お誕生会」</p> <p>6月 「特殊林間」 参加(1)</p> <p>7月 「野菜を収穫しよう①」</p>	<p>4月 野原作(1) 月(1)</p> <p>5月 「お誕生会」</p> <p>6月 「特殊林間」 参加(1)</p> <p>7月 「野菜を収穫しよう①」</p>



# ④ 情緒障害の子どもの場合

## 学校生活実態表

〇〇小学校	〇〇学級	5年	氏名	〇〇(男)	記入者	〇〇	〇〇	〇〇
生年月日	略	略	家族構成	略				
障害状況	神経症的な症状が気になる子ども							
項目	実態(本人の興味・関心を含む)							
①着脱	衣服の前後・表裏や脱いだ後のたのみ方などが気になる。							
②食事	自立しているが、準備や片付けに時間がかかる。							
③排泄	自立し、問題なし。							
④清潔習慣	自分の持ち物が汚れてしまったか、自分が回りを汚していないかなどが気になる。身近な人に確認する。							
⑤物の管理	自分の物かどうか、きちんとしまえたかどうかなどが気になる。							
⑥スケジュールの管理	一日の生活の流れを把握することが難しい。視覚的に確認しやすいように表にするとスムーズに行動できる。							
⑦安全の認識	クギや安全ピンなどが気になり、その処理について確認する。							
①健康状態	朝起きることができず、遅刻が多い。登校してからも、疲れと眠気を訴えることもある。							
②全身運動	問題なし。							
③手指の操作	問題なし。							
④調整力	問題なし。							
⑤持久力	疲れやすく、長時間、作業や学習に取り組むことが難しい。							
⑥協応動作	問題なし。							
①視覚的認知	聴覚認知力に比べると視覚的認知力の方が優れている。							
②ことば	疑問がある語句に対しては、何度も意味を確認したり、文字の書き順や形の正確さを気にしたりする。							
③かず	基本的な知識と技能は身につけているが、答えを出すまでに時間がかかる。筋道を立てて物事を考えることは難しい。							
①対人関係	自分のこだわりが中心となってしまう時には、相手の気持ちを考えず行動したり、他人の意見を聞いたりすることが難しい。							
②集団参加	集団にあわせてスムーズに行動することは難しい。							
③興味・関心	自分の好きなことには興味・関心を持ち、深く追求する。							
④情緒	気分の浮き沈みがみられるが、自分の好きなことについては、落ち着いて前向きな姿勢で取り組むことができる。							
諸検査の記録	検査名	WISC-III	実施日	平成〇年〇月〇日	実施機関	〇〇〇	所見	略

個別の指導計画作成について  
場面観察や知的障害を伴  
児童の事例を載せた。行動・学習面に分けては知的障害の教科・領域の事例と似たような分け  
方・項目になることもある。

## 個別の指導計画 1学期

〇〇学級	5年	氏名	〇〇	〇〇	〇〇	記入者	〇〇	〇〇
年間目標	5年							
指導重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものごとに対して不安感を軽減させ、意欲的に取り組むことができる。</li> <li>学校や学級の約束を守って、規則正しい生活を送ることができ、学習や日常生活に意欲がもたれ、最も後まがりな行動をとることを目指す。</li> </ul>							
学期の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任の支援を受けながら、成就感や満足感を味わい、ものごとに対しての不安感を軽減することができる。</li> <li>生活のリズムを整え、規則正しい生活を送る努力をする。</li> <li>学校や学級の約束を意欲しながら行動する。</li> <li>担任と共に、行事や交流学級での活動や学習に参加できる。</li> </ul>							
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活を、ほぼ、他の児童と同じようになすことができている。</li> <li>学校や学級の約束を意欲でき、自分の考えやその時の気持ちで行動の基準にたもたれ、必要に応じて必要状態である。</li> </ul>							
活動の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の中で過ごすことができるようになっことは本児にとって大きな進歩だと思ふ。無理のない範囲で、このまま学校生活を送って欲しい。</li> </ul>							
指導内容・めあて	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育着への着替えができる。</li> <li>時間のけじめをつけることができる。</li> </ul>							
指導の手だて	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初は、ズボンだけはきかえさせ、次第に上下着替えるように促す。あまりしつこく言わず、本児の意思に任せる。</li> <li>チャイムや、日課表を意欲させ、次の行動に移るきっかけを作るようにする。</li> </ul>							
活動の様子・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>周りの友達の様子を見て、着替えをするようになつた。一度着替えてしまつたと、その後は何も言われなくてもスムーズに着替えができるようになった。</li> <li>休み時間終了時刻を守る事ができるようになつた。次第に、担任からの声かけがなくなつても、日課表に沿つた行動がとれるようになってきた。</li> </ul>							

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、わからぬことからは自分から友達に聞くことができる。</li> <li>・自分のこだわりだけにとらわれず、担任や周りの人の意見を聞くことができる。</li> <li>・気分が優れず、活動度が落ちてしまっても、自分で持ち直すことができる。</li> <li>・必要以上に不安感を持たず、自分のペースで生活できる。</li> <li>・学級担任だけでなく、交流学級担任の話も聞き取ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の援助を待っているだけでなく、自分から周りの友達に働きかけられることも大切だと伝える。</li> <li>・担任は机間巡視という形を多くとり、周りの友達にも積極的に声をかけるようにする。そして、本児が自分の考えを本児にではなく、他の人の考えも参考にして見せる。</li> <li>・最初の頃は、常に側に付いて励ますようにするが、次第に本児が自分から立ち直るまで見守るといった援助の方法に変えていく。</li> <li>・交流学級での生活のペースが苦痛に感じる時には、学級で学習できることを伝える。</li> <li>・話を聞き取れないことは障害の症状の一つであり、理解する能力が劣っている訳ではない。そこで、話の内容を箇条書きにしたメモを渡すようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指示や援助を待つ、受け身の姿勢から、自分から質問をするという積極的な姿勢も見られるようになってきた。</li> <li>・自分の考えに固執するだけでなく、徐々に、柔軟に対応することができるようになってきた。しかし、自分の考えを委ねるまでには、かなりの時間を要する。</li> <li>・担任の援助がなくても、自分で気持ちの切り替えができるようになった。自分で立ち直った時には、さりげなくほめるようにした。</li> <li>・学級で学習できることを確認したため、不安が解消された様子であった。</li> <li>・話の内容を視覚的に確認することができ、本児にとって、とても有効な援助であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字が書けなくなること、障害の症状の一つである。文字が正しいか、書く場所は適切かどうかなどが気がになり、書字が代わり担任が板書を写すことにする。重要事項は、穴埋め式の文を作り、確認させたり、算数の計算は教科書へ記入させたりなど、文字を書く作業を減らす援助を行う。</li> <li>・簡単に写すことができそうな箇所を選び、本児に記入させる。書く場所や漢字にこだわりが見られたときは、本児が納得するまで援助を与える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な作文を書くことができている。</li> <li>・一人でテストを受けることができる。</li> <li>・少しずつ、宿題に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分一人で考えるだけでなく、友達のことを参考にしてよいこと、短くてもよいことを伝える。</li> <li>・一つの問題にこだわらず、そこで止まらずに、ほかの考えを、本児から働きかけてこない限り、見守ることにする。</li> <li>・交流学級で出された宿題のなかで、何か一つできそうなものを選び、やってみる。本児の希望については、家庭で母親と相談して決めることにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りの友達の様子を見ながら行動するように声をかける。また、行動の流れをメモに書いて渡す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんさんの文字を、正確に書けなくなるといって、授業に参加できなくなりになってきた。</li> <li>・時間はかかるが決められた範囲を記入できるようになってきた。しかし、こだわりの多い本児は、その都度指示が必要である。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳への記入も、できるよりのようになった。</li> <li>・友達の文を参考にし、自分の考えを少し加え、短いが林間学校の作文を仕上げることができた。仕上げができたことに、本児はとても満足していた。</li> <li>・本児のゆくりしりしりペースであるが、最後までやり終えることができ、確認行動が多いため、時間ばかりオーバーしてしまう。</li> <li>・母親と相談して、自分が決めた宿題をやってくるよりのようになった。しかし、本児の状態によって、宿題を全く出さない(やっけてこなくてもよい)期間も必要であった。</li> <li>・友達の様子を見ることにより、今は何をやる時間なのか理解し、安心感を得ていた。また、行動の流れを視覚的に確認することが可能になってきたため、スムーズに次の行動に移ることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反省(引き継ぎ事項) <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の症状は軽減されつつあるが、学校教育の中で、まだまだやらせてよいのか、医療関係者とももう少し頻りに連絡をとる必要がある。</li> <li>・保護者に対して定期的な働きかけが大切である。</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、連絡ノートを利用して、学校での様子や家庭での様子を伝えあう。</li> <li>・家庭訪問や学級懇談会などの機会を利用して、保護者(両親)と話をする。</li> <li>・新しい課題に取り組む時には、担任の意図を明確にし、共通理解が図れるように働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関、他の教育機関、福祉機関との連携を図る。</li> <li>・保護者との教育相談を定期的に行う。</li> <li>・毎日の記録を大切に、できるだけ細かく記入する。</li> </ul>

⑤ 言語障害の子どもの場合

※市内「ことばの教室」(通級教室)の個別の指導計画

<プロフィール>

児童名	〇〇〇〇	生年月日(歳)	平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇歳)
性別	男・女	住所	甲府市
保護者氏名	〇〇〇〇	連絡先	自宅 携帯
学校名(園)	〇〇小学校(園)		
学年・組	15年度1年〇組	担任名	〇〇〇〇
	年度 年 組	担任名	担当者名
	年度 年 組	担任名	担当者名
家族構成	父・母・弟		
構音検査の結果	ts / S d / dz t s ω / t j ω ke . ki . ge . gi . ni . ri . ja . jo . j ω 音の歪み舌の癖があり不自然な動きをするために会話になると歪みが強くなる。		
発語器官の運動能力等	下顎、舌が左に動き左口角から息が漏れる。舌の癖が強い。歯間が狭い。発語器官・運動能力等に問題はみられない。		
生育歴 特記事項	特になし		
保護者の願い	正しい発音ではっきり話せるようにしたい。		
入退級等	入 級	平成15年 7月	退 級 平成 年 月

<個別の指導計画>

指導内容	指導の手だて	活動の様子・評価
聞き分け ・音の聞きだし	〇いろいろな音の中に[s ω]音を含ませ[s ω]音が聞こえたらカスタネットをたたき、また、単語レベルでも	・無意味音節でも単語レベルでも[s ω]音を聞かせる ※指導者の口をよく見てしっかり聞き取っている
聞き分け ・音の語内位置弁別	〇単語のどの位置に[s ω]音があるか聞き分ける	※無意味音節でも単語でも、どの位置にあるかすぐに関

練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>無意味音節や単語から[s ω]音を指し出す</li> <li>単語の中のどの位置に[s ω]音があるか聞き分ける</li> <li>[s ω]音を含む2組の音や単語が同じに聞こえるか弁別できる</li> <li>[s ω]音の正誤を聞き分けることができる</li> <li>自分の[s ω]音が聞こえていることがわかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音の異同弁別</li> <li>音の正誤弁別</li> <li>音の自己弁別</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>き分けができる</li> <li>2組の音や単語が同じに聞こえるか、異なっているか弁別できる</li> <li>[s ω]音の正誤を聞き分けることができる</li> <li>自分の[s ω]音が聞こえていることがわかる</li> </ul>
----	---	--	---

発語器官の訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミルクボーロ、ミルクせんべいポツキキー、おっととつとつなどのお菓子を舌の癖を直したたり口唇の運動機能を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>舌、両唇、下顎などの運動能力を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミルクボーロで舌を安定させる。</li> <li>舌の真ん中にボーロを乗せ舌を安定させボーロが落ちないようにする。</li> <li>※舌の癖が強いのでなかなか安定しない。家庭で練習をし安定できるようにする</li> <li>ポツキキーを手を使わないで食べる。</li> <li>口唇の筋肉の動きを高める</li> <li>ミルクせんべいの真ん中を舌でなめ穴をあけ、一箇所切り込みを入れ手を使わずに回しながら食べる。</li> <li>「おっととつとつ」の形を舌でなぞり何の形か当てる。</li> <li>※こつを飲み込みうまくできるようになる</li> </ul>
---------	--	--	--

構音	<ul style="list-style-type: none"> <li>口の形・舌の位置を確認して息の出し方をつかむ</li> <li>ストローをつかって舌や口の形を確認する</li> <li>舌の位置を確認し息の出し方を工夫してストローから息がでるようにする。正しくできると[s ω]音に近い音が出ることを知る</li> <li>単音[s ω]音の習熟練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[s ω]音を出すための直接指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下唇の上に舌を平らにして少し出しストローを正中において息を出す</li> <li>※正しくできストローの袋をうまく飛ばすことができる</li> <li>・口唇を閉じ息を出すことで[s ω]音に近い音を出す</li> <li>※口の形・ストローの位置がわかり[s ω]音に近い音がでて喜ぶ</li> <li>・[s ω]音の練習</li> <li>・ストローがなくても[S u]音が出るようにする</li> <li>※舌を出さないと正しい音が出ない舌を出しているように</li> </ul>
----	---	--	---

訓練

<p>・一音ずつ伸ばしたり速さを減らしたりリズムをつけたりして練習する</p> <p>○無意味音節での練習 [s ω]音+他の音 他の音+[s ω]音 他の音+[s ω]音+他の音</p> <p>○[s ω]音の単語レベルでの練習 ・語頭にある単語での練習 ・語尾にある単語での練習 ・語中にある単語での練習</p>	<p>い ・[s ω]一[s ω]一 す ・[s ω][s ω][s ω] ど速さを減らしたりリズムをつけたりして練習すること ※一音ずつのばすこと 安定して正確に発音できるようにした ・[s ω]音の語頭・語尾・語中の無意味音節での練習 ※[s ω]音に母音をつけて練習が楽しんできた</p> <p>・[s ω]の語頭の単語 すいか・すもも・すみ [s ω]の語尾の単語 いす・うす [s ω]の語中の単語 くすり・ですと ※正しく発音出来る音で構成される単語で練習する 以前の癖が出ないように注意しながら単語を読んで練習する 文字をみなくて[s ω]音は気をつけて発音しようと注意している 家庭でよく練習をしてきて暗唱して正しく発音できる</p> <p>・[s ω]の句や短文での練習 すいかとすかーと すいかをすこしたべす ぎた など ※文字化して[s ω]音に印を付けると気をつけて正しい発音が出る ・[s ω]音に気をつけて音読する 国語の教科書[s ω]音に気をつけて音読する ※正しく音読できる ・日常会話の中で[s ω]音に気をつける ※学校での生活について話す時、話すことに夢中になりすぎると以前の癖が出てしま</p>
<p>○[s ω]音がある句や短文での練習</p> <p>○[s ω]音に注意して音読する</p> <p>○日常会話の中で[s ω]音を正しく発音する</p>	

構音障害の指導

- 1 教育相談
  - スクリーニング検査
  - 構音の状態を把握する
- 2 構音検査
  - (1)会話
    - 会話の様子会話から構音の状態を把握する
  - (2)単語検査
    - 単語レベルでの構音の状態を把握する
  - (3)音節復唱検査
    - 音節レベルでの構音の状態を把握する
  - (4)文章検査
    - 文章レベルでの構音の状態を把握する
- 3 構音の連続検査
  - (1)被刺激性検査
    - 限り音が聴覚刺激でどの程度正しく模倣できるか調べる
  - (2)語音弁別検査
    - 誤って発音している音と正しい音とのちがいが聞き分けられるか調べる
- 4 発声・発語器官の検査
  - ・舌、唇、歯、など口の中の様子を見る。

<検査のまとめ>  
1~4の検査の結果の分析をする  
○指導対象児  
・正しい発音ができない  
・周囲の人や本人がことばを気にしている  
・友達からかわれらる  
・コミュニケーションに支障をきたしている  
・発達段階に比して不自然である
- 5 指導のプロセス
  - (1)どの音から指導するか
    - ・学習しやすい音から
    - ・明瞭度を下げている音から
    - ・本人が気にしている音から
  - (2)聞き分け訓練
    - ステップ1 音遊び
    - ステップ2 音の聞き出し
    - ステップ3 語内位置弁別
    - ステップ4 異同弁別
    - ステップ5 正誤弁別
    - ステップ6 自己弁別
  - (3)発語器官の機能訓練
    - (噛む、飲む、吸う、吹くなど構音器官の訓練)
  - (4)構音訓練
    - ステップ1 単音での練習
    - ステップ2 無意味音節での練習
    - ステップ3 単語レベルでの練習
    - 語頭→語尾→語中
    - ステップ4 句、短文レベルでの練習
    - ステップ5 音読練習
    - ステップ6 会話練習
- 8 終了の基準
  - 日常会話で学習した正しい発音で話すことができることが最終目標である。しかし、すべての子どもに望めない。
  - 子どもの実態に合わせて本人や家族のニーズにあった目標を設定し終了を決める。

これらの点を考慮して指導が必要かどうか見極める



## ⑥ 肢体不自由の子どもの場合

基本的に身体の障害の状況に応じた「自立活動」が主な内容になる。知的障害など他の障害を重複する場合は、その障害に対応した領域・教科の項なども併せて参考にして作成することになる。

以下に示す事例は、県内の肢体不自由児の特殊学級で作成・使用している『個別の指導計画』の例である。(一部記載の省略及び変更がある。)

### A 障害が肢体不自由のみの場合

#### (1) 実態 (家庭生活調査表と学校生活実態表の複合)

氏名	A	生年月日	略	年齢	略	○学年	略	性別	略
診断名	痙直性脳性マヒ								
調査の記録	田中ビネー等 略								
家庭の状況 生育歴等	略 指導に関係の深い事柄を中心に記載する。								
身体の状況	下肢機能障害両下肢(○級) 両下肢は器具装着。膝関節は伸びきらない。尖足。何かにつかまっていれば立ち姿勢を保つことができる。 上肢機能障害両上肢(○級) 関節が硬く、両腕は真っ直ぐ上がらない。書字は右。細かい作業は難しいが、鞆の開閉等の動作ができる。 視機能の状況、その他 略								
移動	車椅子や歩行器を自分で動かして移動することができる。脇を支える、両手をつなぐなどの補助があれば短い距離を歩いたり、階段等段差のある所も昇り降りできる。階段は、自動昇降機を利用することもある。								
基本的 生活習慣	食事…専用の食器を使って自分で食べることができる。咀嚼の状況等 略 排泄…声をかけると意思表示をする。脱ぎ着の介助必要。紙の使い方、手を洗う様子等について 略 着替え…大きいボタンかけ外し可等 略								
学習面	学年相当の学力がある。以下略 国語の書字、算数の作図等、特に本児が配慮を必要とする教科の様子について記載する。								
人間関係 コミュニケーション	場面緘黙(学校)。家でも他人が来ると話さなくなる。友達のかかわりは喜び、よい表情をする等 配慮を必要とする状況について記載する。								
情緒	他傷行為が見られる。担任への執着が強い。不眠から○月B病院を受診等 詳細略								
保護者のニーズ	当面の情緒の安定。意欲的に登校すること。友達と積極的に交流してほしい。障害の受容と将来の社会的自立等 詳細略								
本人のニーズ	勉強を頑張りたい。人の役に立ちたい等 詳細略								
担任所見、配慮事項等	適切な運動を行い筋力をつけることで、できる動作が増えると考えられる。何らかの心理的な問題を抱えている場面緘黙と考えられる。心理療法を取り入れた授業を行い、少しずつ心を解放させた。								

#### (2) 目標

長期目標	自己の力を発揮し、よりよく生きる力を身につける。 ①日常生活において、できる動作を増やしていく。 ②学力を高める。 ③集団参加能力を高める。 ※各目標に具体目標がある。 ④情緒を安定させる。 詳細略
支援の基本方針	・基本的生活習慣の育成を図る。 ・生活経験を豊かにし、自ら課題解決する能力を育てる。 略
その他の配慮事項	交流学級との連携、校内の情報交換等必要事項を記載する。

#### (3) めあて、評価の記載例 (一部 自立活動のみ)

1学期の学習の様子(通信票の別冊として保護者に渡す。)

教科	学習のめあて (短期目標)	ようす (評価及び今後の課題)
自立活動	手すりにつかまって歩いたり、歩行器を使って歩いたりし、筋力を鍛える。  床から椅子、椅子から椅子へ自分で移動することができる。	左腕の方が力もあり器用なの で、右に杖をかまっ左に歩くと すまじい。私はいはたがで、ま つかかんで歩くことにしたい 自分で歩行練習したいと考 えて、左腕に杖を、右腕に 歩行器をつけて歩いたりし、 筋力を鍛える。
生活	床から椅子、椅子から椅子へ自分で移動することができる。	床に座った状態から歩行器に かまると、逆全歩行の必要も ない。他で椅子の手すりを、 自分で歩行器の手すりに変 えて、歩行器で歩いたりし、 筋力を鍛える。
運動	片手でつかまっ て立っているこ とができる。	片手だけつかまっ てる動作は、上 げ下げの動作 を練習して、 両手でつかま ってる動作に 慣れていく。
	不安や悩みを適 応的に発散させ る。	視線を移動す る練習をして いく。

※同様に2学期、3学期を作成する。めあては随時修正していく。



## B 障害が重複している場合

(1) 実態整理表

記入者 ( 略 )

記入日 (平成 15 年 ○ 月○日)

氏名	C	生年月日	略	年齢	略	性別	略
入学年月日	略		学年	略			
障害名及び状況	<p>下肢を中心とした障害。知的障害。下肢治療のための手術歴あり。                  下肢障害のため身体を左右に揺らせて歩く。歩行不安定。早歩きができない。入学当時は排泄が自立していなかったため、食後の失敗が多く、また、排泄のリズムが不規則なので紙おむつを使用していた。現在は、ほぼ自立してきているが、定時排泄で行っているため、天候や体調によっては失敗がある。便意のサインを学習中である。                  就学時検診の時は全く興味を示さなかったひらがなや数字が、読めることがわかった。まだ、いつでもどこでも持っている能力が発揮できているわけではない。手指の使い方が不器用である。</p>						
身障者手帳	種	級	療育手帳	一			
<p>【生育歴・養育環境】(発達の経過、就学前の様子、家庭の状況等指導上必要なことのみ記入)                  就学時検診では、ひらがなを読むことができず、興味を示さなかったが、2月～3月にかけて、祖母と一緒にカルタとりをして覚えたいらしい。以下略                  集団保育の状況等を記載する。(園名や介助の有無等も)</p>							
<p>【諸検査の結果】(知能検査、発達検査等 検査名と検査実施日を記入)                  全訂版田研・田中ビネー MA CA IQ等 略</p>							
<p>【医療面での特記事項】(治療の経過、服薬等 指導上必要なことのみ記入)                  内服薬なし                  D医療センターへ、年2回定期受診 手術の予定等 以下略</p>							
<p>【保護者のニーズ】(生活上・学習上の課題、将来の希望等)                  入学時: とにかく学校に早く慣れて、毎日楽しく送ってほしい。生活面で隣の学級や同学年との交流を増やしてほしい。                  2学期: 名前が書けるようになってほしい。運動会で他の児童となるべく同じようがんばってほしい。一人登校等 略</p>							
<p>【本人のニーズ】(将来の希望、本人の願い等、書けない場合は記入しなくてよい。)                  (現段階では、自分の意思を伝えることは難しい。) 何事にもまじめに取り組む。簡単な指示はわかる。何をしたいのかが自分ではうまく決められない。</p>							
<p>【学習上の注意事項】                  股関節にあまり負荷がかからないように、常に注意が必要である。ジャンプ等厳禁。特に左足が短いため左に重心がかかりやすい。階段の昇降は、常に左足から出すよう保護者に言われているが、右足の方が筋力が強いせい、どうしても右足からなる。右回りを、立位・座位共に左足を前に出し、右足に重心をかけるなど心がけている。</p>							
<p>【身体の状況】(筋緊張や姿勢の状況、手術箇所、脱臼箇所等)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;"> <p>○立位</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○あぐら座位</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○椅子座位</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○仰臥位</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○長座位</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>○伏臥位</p> </div> </div> <p>特記事項                  あぐら座位は、1学期はできなかった。(股関節が硬くなってきているので、開いて座るのを極端に嫌がる) 9月に入って、少しできるようになっていた。医学的にいいかどうか分からないので、あまりやらない。長座位・椅子座位共に腰が入っていない。</p>							

教科・領域 指導計画

平成15年〇月〇日作成

教科・領域	目 標	指 導 内 容 ・ 方 法	評 価	
生 活	基本的 生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服の前後を間違えないで着替えることができる。</li> <li>・お皿をなめない。</li> <li>・食器を持って食べる。</li> <li>・袖が濡れないように手を洗う。</li> <li>・ハンカチを使って手を拭く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日1校時の体重測定の際に服の着脱をする。</li> <li>・前後が分かるように印を付ける。</li> <li>・箸でまとめるようにする。</li> <li>・背を伸ばした姿勢をとらせ、食器を持つよう指示する。</li> <li>・袖をまくってから手を洗う。</li> <li>・毎朝ハンカチ調べをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印がまだ付いていない。</li> <li>・なめないようにしているが、なめてしまう時もある。</li> <li>・指示されると持つことができる。</li> <li>・教師が隣でしたことをまねる。一人ではできない。</li> </ul>
	健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路を安全に渡る。</li> <li>・車に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左右を指で指しながら確かめ、手を挙げて渡る。</li> <li>・車を指さす。</li> <li>・車の色を言ったり、一定時間に通る台数を数えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車の確認はできていないが、左右を見ることが出来る。</li> <li>・色を言おうとするが正しく言えない。数えようとするが、正確にすることは難しい。</li> </ul>
	遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけんで、勝ち負けが分かる。</li> <li>・順番を待つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけんの意味を知る。</li> <li>・2人または3人でじゃんけんをし、勝敗表をつける。</li> <li>・列の後ろに並んで、順番を待つ。</li> <li>・前の人についていく。</li> <li>・学習の中で順番にもらう機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・じゃんけんの意味が分かるが、勝ち負けがだいたいわかるようになってきた。</li> <li>・列の後ろに並ぶことができる。声をかけることで、前の人についていくことができる。</li> <li>・順番を待つことができる。</li> </ul>
	交際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう」「ごめんなさい」「いよいよ」を適切に使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機会ととらえ、気持ちを表す適切な言葉を一緒に言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・促されると言える。</li> </ul>
	役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除で机を隅々までふく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョークの粉を机にまき、それをきれいに拭く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・端からきれいに拭くことは難しいが、机を拭くことができる。</li> </ul>
	手伝い・ 仕事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の準備・片付けができる。</li> <li>・ロッカーにある持ち物を準備・片付けができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科ごとにロッカーに入れ、自分で準備・片付けをする。</li> <li>・使用する物ごとに分け、わかりやすくロッカーに入れておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備をしようとするが、間違える。片付けは進んでする。</li> </ul>
	きまり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムを守る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイムが鳴ったら片付ける。</li> <li>・休み時間と授業時間のを示すカードを示してチャイムの意味を知らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊んでいた児童と一緒に行動する。一人で遊んでいたときはそのまま遊んでしまう。</li> </ul>
	金銭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金を出して買い物をし、お釣りをもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジに商品を持っていき、買い物をする。</li> <li>・近所のコンビニに実際に買い物に行く。</li> </ul>	
	自然	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草花や小動物に親しむ。</li> <li>・金魚の飼育をする。</li> <li>・適切な量の餌を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウサギに餌をあげる。</li> <li>・花に水やりをする。</li> <li>・餌を1回分ずつにしておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウサギが怖く、近寄ることができない。</li> <li>・1回分の量を与えることができる。</li> </ul>
	社会の仕組 み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろなお店の名前を知る。</li> <li>・家族の役割に気づく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所のスーパーマーケット、コンビニエンスストアなどを校外学習で調べる。</li> <li>・家の中で父母がどんなことをしているのかを調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前がわかる。</li> <li>・父親の仕事の話すことができる。</li> </ul>
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナーを守って利用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声を出さないようにする。</li> <li>・カセットなどで騒音を流しながら、大声の中ではうまく会話ができないことを体験する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静かにしようとしているが興奮すると大声を出してしまう。</li> </ul>	
国 語	聞く・話す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の話や指示が、大まかに分かる。</li> <li>・聞いたことを具体的に答える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話をしている人の方を向いて聞く。</li> <li>・昨日あったこと・家族がしたこと等を話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中して聞くことができる。</li> <li>・話がそれてしまう。</li> </ul>
	読む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2音節の単語を読む。</li> <li>・絵カードと文字をマッチングできる。</li> <li>・ひらがなを正確に読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字カードに書かれた文字を読む。</li> <li>・絵カードを見て、文字カードで単語作りをする。</li> <li>・文字カードを読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上下反対になることが多い。</li> <li>・お・あ、さ・せ、も・ほを読み間違える。</li> </ul>
	書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トンネル書きやなぞり書きでひらがなを練習する。</li> <li>・名前が書けるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦・横・円形のトンネル書きやなぞり書きをする。</li> <li>・線書きを練習しながら方向の認知を高めていく。</li> <li>・なぞり書きを繰り返しながら書けるようになる。</li> <li>・点結びで形・方向の認知を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トンネルや線からはみ出ないように意識しながら書ける。</li> <li>・点の間隔が広いと結べない。</li> </ul>
算 数	数量の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1から5までを1対1対応で確実に数えられるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字カード、ドットカード、具体物をマッチングさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1と2は確実にできるようになった。3もできるようになってきた。</li> </ul>
	量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多いー少ない、大きいー小さい、重いー軽いが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2つまたは3つのものを比べる。</li> <li>・水を飲むときに、コップの水量を比べたり、遊びや学習の中でボール等の大小を比べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2または3つの物を比べることができる。関係が入れ替わったりするとわからなくなる。</li> </ul>
	図形・ 数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な図形・記号を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円・楕円・三角形・正方形・長方形、⊥T等の記号を書いたり、同じものを結ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円・三角形・四角形を描くことができる。</li> </ul>

○自立活動指導計画

作成日 平成15年 〇 月〇日

指導プログラム名	ふみしめる	指導時間	業間休み 昼休み
指導目標	足の踏みしめを意識し歩行動作の改善を図る。		
ねらい	課題動作	評価の観点	評価
足裏を意識することで、床を踏みしめて歩く準備を整える。	足裏の溶け合い《仰臥位》	落ち着いたか。	落ち着いて足裏に集中することができる。
腰を立てて上体を伸ばした姿勢で、滑らかに体を動かす。 足裏で床を踏みしめる。	片膝で立つ(2-200)《膝立ち》	片膝立ちの姿勢を保持できたか。 腰を滑らかに前後させながら、床を踏みしめたか。	足裏で床を踏みしめることができた。
安定した立つ姿勢をとって、足を滑らかに動かしながら踏みしめる。	足の踏みしめ(2-206)《立位》	安定して立てたか。 足を滑らかに動かして踏みしめたか。	上体が前傾してしまう。上体がまっすぐのままではうまく膝を曲げることができない。
股、膝、足首を柔らかく動かせるようにする。 上体及び上肢を楽にして、安定して立てるようにする。	脚を折る(1-146) 膝・足首の曲げ伸ばし(2-260)《立位》	滑らかに膝を曲げ、のばせたか。 上体を楽にして踏みしめたか。	上体が前傾したり床に手を付いてしまう。
膝・腰・背中を伸ばしたまま、体重を片脚にのせて、その足で踏みしめられるようにする。	上体を片脚に乗せる(2-141) 片足踏みしめ(1-15)	上体を倒さず左右への重心移動をしたか。 片足にしっかりと乗り、反対側の脚を上げられたか。	腰や背中を伸ばしたままは難しい。 右足に上手に乗ることができる。左足に重心を移そうとすると、恐怖心から指導者の手にしがみついてしまう。
片足を半歩踏みだし、前後の足に滑らかに重心移動できるようにする。	重心の前後移動(1-148) 上体の前後移動(2-208)《立位》	腰から重心を移動しているか。 片足にしっかりと乗っているか。	背が曲がってしまったり、腰が後ろに逃げてしまう。

○自立活動指導計画

指導プログラム名	うごかす	指導時間	各教科・日常生活の中で
指導目標	立位及び座位で腰を起こし、背を伸ばした姿勢の保持ができる。 手指の巧緻性を高め、物を操作するときのイメージ化を図ることにより、作業能力を高める。		
ねらい	課題動作	評価の観点	評価
手首を柔らかく使って、鉛筆で点を打つ。	点を打つ(1-114)《書字動作》	鉛筆を正しく握ったか。 手首を柔らかく使ったか。	握ったときはいいが、だんだん手首に力が入っていき、持ち方も崩れる。
股を緩め腰を立てて、立てた腰を楽に保つようにする。	腰を立てる(2-250)《あくら》	腰を立てたか。 腰を楽に保てたか。	
上位、ズボンを一着で着られる。	上位・ズボンの着脱	首・袖・裾が通せたか。 裾をズボンに入れられたか。	一人で通すことができる。 言われると、前側を入れることができる。 さらに、指さししながら指示すると、裾を入れることができる。
ヘッドギアのベルトを締める。	ヘッドギアの着脱	ベルトをリングに通せたか。 ベルトを締められたか。	上手に通すことができる。 よじれてしまい、又、緩くなってしまうが、マジックテープに止めることができる。
そうきんを絞る。 ロッカーに荷物を整理して入れる。	そうきん絞り・ロッカーの片付け	そうきんが絞れたか。 ロッカーからはみ出さず、荷物をそろえられたか。	固くはないが、絞ることができる。 はみ出さないように荷物を入れることができる。

○自立活動指導計画

指導プログラム名	みんな	指導時間	特別活動(集団で行う行事)の時に
指導目標	集団の中で一緒に行動する。		
ねらい	課題動作	評価の観点	評価
状況を理解し、落ち着いて参加する。	事前に活動予定について本人と確認する。	その場に落ち着いていられたか。	私語もなく、その場から動くことなく話を聞くことができた。
友だちと一緒に活動する。	ゲーム、合唱等	友だちと関わりが持てたか。	自分の役割を、一緒にやっている友達を見ながら同じようにできる。

## ⑦ 病弱の子どもの場合

本県においては、これまでも単独設置の病弱特殊学級の数は少なく、そのほとんどがいわゆる病院内にある学級である。ここに紹介する一連の「個別の指導計画」についての資料は、長い間病院内での教育に実績があり、指導内容・指導方法を組織として研究してきた山梨県立富士見養護学校からご提供いただいたものである。既設の特殊学級及び通院をしながら通常の学級で学習をしている児童生徒が在籍している小・中学校では、これらを参考にして、各校における「個別の指導計画」を作成してほしい。

### (1) 病弱児教育における「個別の指導計画」の基本的な考え方

- それぞれの児童生徒の様子全体がわかるものとして児童生徒記録票を作成し、年度末には在籍者全員のものを学部別にまとめるものとする。この中に自立活動の計画である「個別の指導計画」を含める。
  - 本校の特性や実態をふまえ、的確かつ系統的に指導計画が立てられる様式を工夫していき、将来的には保護者に指導の責任が説明でき公開できることを目標とし、改良を行っていく。
  - 児童生徒記録票は、入院生と通院生の2様式とし、それぞれ次のような項目から成る。  

入院生用	I 実態把握票 (医療状況)	II 自立活動 (個別の指導計画)	III 教科・領域の学習の記録
通院生用	I 転入時把握票 (医療状況 転入までの様子)	II 初期対応把握票 (通常学級時把握票)	III 適 (指導目標 自立活動個別の指導計画 教科・領域の学習について総合所見)
- ( ・入院生・通院生とも実態把握票・転入時把握票の中の医療状況は、転入時に行う医教連絡の折りに、転院生も医療状況把握票と兼ねるものとする。 )  
( ・入院生・通院生とも医療状況把握票・転入時把握票と兼ねるものとする。 )  
( ・入院生・通院生とも指導目標は、前籍校への学習状況報告書と兼ねるものとする。 )
- 医療・家庭・前籍校等からの資料を活用し、多角的に実態を捉え、指導目標を設定する。
  - 入院生は「実態把握票と指導目標まで」、通院生は「転入時把握票と初期対応時把握票まで」を学部会で検討し、指導計画について共通理解を図る。通院生は「転入時把握票と初期対応時把握票」を学部会中心に検討し、指導計画について共通理解を図る。どちらの会で話し合うか判断が難しい場合は、担任と関係者で話し合っ解決する。
  - 「個別の指導計画」を立て、各教科及び領域、総合的な学習の時間と密接な連携を保つ。また、指導計画と記録は、原則として学期ごと記入する。
  - 転出時、学年末にはすべての項目に記入する。

### (2) 「個別の指導計画」の作成の手順

(様式A) 様式あり全員回覧 (様式B) 様式あり関係者回覧 (F) 個人ファイルに記入

